



雨ニモマケズ

11月25日

「キャリア教育の成果」

校長 原 直樹

3年生は、「修学旅行」と「北商工会の皆様との座談会」から、「生き方学習新聞」を発行しました。その中から、林蒼真さんの新聞の一部を紹介します。

『修学旅行で学んだこと』

白川郷・金沢・立山黒部に住む方々の生き方を通して僕が思ったことは、「地域への愛」です。なぜなら、昔のその地域の伝統などを若い世代に広めている人がいたからです。また、景観を損なわないように、色を変えたりなどの工夫をしているところが観られたからです。そこから、僕は、自分の地域の祭りなどに参加したり、ゴミ拾いなどのボランティアに参加したりして、中津川の美しい自然を残していきたいです。

『座談会に参加して学んだこと』

僕は、座談会で今井さんがおっしゃっていた、

「自分にやりたいことがあるなら、それをやれ。」

と言う言葉に感動しました。自分にやりたいことが見つかったら、最後まであきらめずに挑戦していこうと思いました。今井さんのおっしゃったことに、もう一つ印象に残ったことがあります。

それは、

「一度は地元を出た方がいい。」

という言葉です。最初はびっくりしました。僕は、今井さんが、地元にとずっといてほしいと言うと思ったからです。一度は外に出てみることで、地元では感じられないことを感じることで、自分のためになると思いました。

修学旅行と座談会を通して共通していたことは、「地元への愛」です。どちらからも、僕は、「地元への愛」を強く感じました。

蒼真さんは、修学旅行では日常と全く違う世界を観、そこで生きる人々の地元愛を肌で感じてきました。そして、福岡の地元で活躍する社会人の言葉から「一度は外に出て自分が何を感じるか」を試すことの大切さを学ぶと同時に、やはり強い地元愛を感じたのです。福岡中の「総合的な学習の時間」のテーマは「キャリア教育」です。このテーマに則って行った「修学旅行」や「座談会」が、一連の思考として繋がっているのは素晴らしいことではないでしょうか。

11月10日には、1年生が「中津川市すご技プロジェクト」で、中島工務店の見学に行ってきました。そこでは、この春地元の高校を卒業したばかりの19才の青年が「一流の重機オペレーターになりたくてこの会社に入社しました。」と語ってくれました。中学生にとってはさぞかし眩しく見たのではないかと思います。

また24日には、2年生が、福岡の地元3カ所の事業所巡りに出かけます。事前学習も十分行ってきました。地元福岡の事業所とそこで働く方の生き様に触れることができます。きっと、自分自身の生き方や、このふるさと福岡への愛を深める学びができることでしょう。



9月27日 商工会の方との座談会